

第15回民俗学シンポジウム

秋田学ことはじめ

—民俗学への招待—



参加費
無料

開催日時▶令和6年10月26日(土) 午後1時00分～3時00分(開場 12時50分)

会場▶ノースアジア大学 経済学部棟3階 301 教場

プログラム

1. 挨拶

2. パネラー 鎌田幸男 (経済学部特任教授、雪国民俗館館長)

テーマ「民俗学への招待」

寺迫 剛 (国家試験等センター講師、雪国民俗館館員)

テーマ「共にこそ生き残るナマハゲ／なまはげと男鹿市」

3. 雪国民俗学研究会の活動報告

4. 質疑応答

司会・進行 橋元 志保 (総合政策学部教授、雪国民俗館館員)

主催: ノースアジア大学雪国民俗館

連絡先: TEL 018-836-6592 (担当: 嵯峨)

Mail saga@nau.ac.jp (担当: 嵯峨)

第15回民俗学シンポジウム 「秋田学ことはじめ－民俗学への招待－」

開講日時 10月26日(土)(予定) 午後1時00分～3時00分(開場 12時50分)

会場 ノースアジア大学

申込締切 予約不要 **問合せ先** 電話 018-836-6592 まで(担当:嵯峨)



コーディネーター・パネラー

鎌田 幸男

現職 ノースアジア大学 雪国民俗館 館長
ノースアジア大学 経済学部 特任教授

発表テーマ「民俗学への招待」

民俗文化(民俗行事、民俗芸能含む)とは、地域住民が長い間くり返すつみ重ね継承してきた生活習慣や暮らしの習わしをさしている。しばしば民間伝承とも称されるが、暮らしの文化であり、生活の文化とも置き換えることができる。その根底には、生業を基礎にした住民の様々な想いや諸々の願い、それに暮らしの精神的な支えである信仰が流れている。伝統的な民俗文化にはそれが詰まっている。換言するとそれは住民の暮らしの結晶なのである。

本発表は、男鹿の伝統的な民俗文化であるナマハゲ行事を事例にして考えようとするものである。



パネラー

寺迫 剛

現職 ノースアジア大学 雪国民俗館 館員
ノースアジア大学 国家試験等センター 講師

発表テーマ「共にこそ生き残るナマハゲ／なまはげと男鹿市」

「ナマハゲ／なまはげ」という誰もが知るキラーコンテンツをもってしても、収縮する各地方の自治体と同様、やはり男鹿市の人口減少も止まらない。中央政府の意を受けた民間有識者会議がショックドクトリンとして「消滅可能性都市」を名指しして自治体間競争を強いたところで、国の政策こそが現在の人口動態の元凶であろう。もはや、男鹿市を含む先進自治体の視点は、単なる移住促進ではなく、「交流人口」あるいは「関係人口」の増加にシフトしている。そこで重要となってくるのが、「ナマハゲ／なまはげ」などの男鹿ならではのコンテンツである。



司会・進行

橋元 志保

現職 ノースアジア大学 雪国民俗館 館員
ノースアジア大学 総合政策学部 教授